

図書館と地域社会

— 広がる、それぞれのかたち。 —

明治大学は新しい高等教育の使命の一つとして「社会貢献」を掲げています。その一環として図書館は知的資産を社会に開放・発信しています。明治大学3地区の図書館がそれぞれの地域にどのように開放しているか、地域とどのように関わっているかをお知らせします。

Case

1

生田図書館と川崎市多摩区

生田図書館の多摩区との連携は、2005年12月に川崎市多摩区と多摩区内にキャンパスを置く3大学（専修、明治、日本女子）が結んだ協定「多摩区・3大学連携協議会」がスタートとなります。この「協議会」は、大学が持つ知的資源や人材を活用して、地域の課題解決に向けた実践的な活動を展開していくことを主な目的としています。発足して日も浅いことから毎月協議会を定例で開催し、様々な方面から検討を重ね、できることから行動に移していくスタイルでやってきています。

他方、川崎市多摩区には大学施設の区民利用という目的もあり、協議会の中でもたびたび話題となってその方向性を伺っていましたが、2006年3月に第1回の大学施設区民利用検討委員会が開催されました。大学施設といっても各大学ともスポーツ施設をはじめいろいろな施設を擁していますが、明治大学では、中央図書館が千代田区と、和泉図書館が杉並区と連携をしていることから、生田図書館の地域開放に目が向けられました。

そもそも川崎市多摩区は以前から専修大学に対し、図書館の地域住民への開放を呼びかけ、専修大学も協定を結ばずに現実面でそれに応えてきた経緯があります。専修大学は人文・社会科学系をメインとした図書館であり、明治大学は理工、農を中心とした自然科学系図書館であり、その蔵書の性格が異なることから、区民が両者を使うことができると大きな利益となります。また、多摩区には工業関係企業が多いことと、同様の業種に勤める区民が多いことから、明治大学の自然科学系資料を使えることは大きな意味があります。さらに、明治大学は日曜・休日も開館し、平日も22時まで開館していることから、勤労者にとっても使いやすい図書館といえるでしょう。そのような経緯を経て、2006年3月31日覚書を結び、4月1日正式にスタートとなりました。利用については千代田区、杉並区に準じた形とし、学生優先の原則により、試験期の7月と1月は利用をお断りしています。

逆に、私たちが川崎市の図書館を使う場合は、特に一般の利用と変わりはありません。多摩区には、向ヶ丘遊園駅前に多摩図書館が、稲田堤駅前に菅閲覧所があります。利用規定に則って使用してください。今回の協定を進める話し合いの中で、市立図書館の本を借りて返さない学生がいる、と暗に明大の学生が…ということを言われたことがあります。大学の中でも外でもルールを守って、大学図書館と公共図書館の両方を上手に利用していただきたいと思っています。

次ページへ続く



「多摩区・3大学連携協議会」では、多方面での活動を行っています。

●コンサート

2006年2月8日の協議会設立記念コンサートに続き、2006年9月29日に「多摩区3大学連携コンサート」が開催されました。専修大学からはスウィング・ジャズ研究会、日本女子大学からはfolklore研究会が、そして明治大学からは応援団とチアリーダーが参加して、それぞれの腕と喉を披露しました。身近で生の演奏を聞くことができ区民には大好評のようです。

次回のコンサートは2007年10月9日を予定しています！



協議会設立記念コンサートでの明大

●区民会議への参加

2005年、川崎市多摩区の呼びかけにより、各大学から1名ずつ区民会議に参加しました。翌年はさらに団体推薦枠委員として連携協議会から1名が、公募委員として本学の院生1名が参加しました。

●インターンシップ実習

川崎市多摩区役所をはじめとし、区内の各事業所で受け入れています。専修大学と日本女子大学はこのことで覚書を結び積極的に学生を送り込んでいるようです。本学は今春のインターンシップに初めて文科系学生の申し込みがありました。しかし、残念ながら生田の理工、農学部からはまだ参加者がいません。将来この種の職につきたいと考えている方、トライしてみたい方がいますか。

●各種イベントへの交流と連携

区民祭や大学祭などのイベントを通じて、区民と学生の相互参加による交流を進めています。そのなかでも箱根駅伝の応援は毎年盛んになっています。区役所に応援の垂れ幕を下げるとともに、1階ロビーに「箱根駅伝応援コーナー」を設置し、2日の往路には1区・六郷橋先の沿道に陣取り、青い協議会の幟旗や両大学の旗を振って選手に声援を送りました。専修大学は次年度のシード権をとりましたが、明治大学は残念ながら16位に終わりました。来年は是非ともシード権が取れるよう一緒に応援しましょう。



多摩区役所「箱根駅伝応援コーナー」

●フィールドマナー啓発事業

区内最大の自然環境資源である生田緑地でのフィールドマナーの啓発を目的に、区内の小学生の親子と大学生が一緒になって自然保護を学ぶ取り組みです。2006年も多くの親子が集まり、農学部・倉本教授の話に基づき自然について考える話し合いをして過ごしました。

このように、大学と多摩区との交流はいろいろな形で各方面に広がっていかようとしています。学生の皆さんもちょっとキャンパスの中から外に飛び出し、町に出てみてはいかがでしょうか。楽しい学生生活にひとつのアクセントが加わるかもしれません。